

## 令和5年9月20日 区長記者懇談会

### 【司会】

皆さま、それでは定刻となりましたので、只今から北区長との記者懇談会を開始いたします。本日はお忙しい中お集まりいただきまして、まことにありがとうございます。私は本日の進行を務めます。広報課長の窪田と申します、どうぞよろしくお願いいたします。本日はやまだ区長その他、政策経営部長の藤野と企画課長の倉林が出席しております。では、初めにやまだ区長より一言ご挨拶申し上げます。

### 【やまだ区長】

皆様、こんにちは。  
今回、今月の記者会見を初めて懇談会という形で、記者の皆さんと意見交換を含めたざっくばらんな場にさせていただけたらなと思っております。

この懇談会の開催にあたって、昔、石原都知事がかなりこういった記者さんとの懇談会を行われていて、そこでいろんなものが生まれてきたって話を当時、先輩都議会議員に話を聞いたことがありまして、やっぱり区の思いをお伝えするだけではなくて、記者の方々からのご意見や、そういった意見交換の中で新たな視点や考え方も生まれてくるっていうのはすごくいいことだなって思っておりますので、いつか開催したいと思っておりました。

前回は補正予算をはじめ、さまざまな事業系の内容が多かったので、今月に関しましては懇談会ということで開催をさせていただきました。どうぞよろしくお願いいたします。

そして今回この表紙ですが、ふるさと北区民まつりの写真を挙げさせていただきました。10月の7日8日、土曜日日曜日に2日間で開催をさせていただきます。是非4年ぶりの区民まつり多くの方にご来場いただきたいなと思っておりますし、今回3会場をマイクロバスで、車をつないで各会場に行っていただけるような新たな取り組みも始めます。実行委員会の方々の御尽力いただきながら、コロナ後の区を盛り上げていくお祭りの第1弾として、北区としても全力応援でやっていきたいと思っておりますので、ぜひとも記者の皆様、取材にお越しいただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

### 【司会】

ありがとうございます。  
初めに本日の流れについて簡単に御説明申し上げます。

冒頭、区長から1件ご報告をさせていただいた後、事前に本日区長との懇談でお聞きになりたい項目について、数社からご希望をお寄せいただきましたので、その項目をもとに懇談を始めさせていただきます。

最後にお時間の許す限り区政全般について記者の皆様と意見交換などをさせていただければと存じ

ます。

また、懇談の様子は皆様のお姿は映りませんが、後ほど区公式のユーチューブの方にアップをさせていただきますので、予めご了承ください。

それではまず区長から先月の定例記者会見でもご報告をさせていただきました、北区立保育園における不適切な保育と疑われる事案と、今後の対応についてご報告を申し上げます。

#### 【やまだ区長】

前回記者会見の中でもご報告をさせていただきました。

北区立保育園における不適切な保育と疑われる事案と、今後の対応について、現時点でのご報告をさせていただきたいと思います。

令和5年4月、6月に実施をされました、東京都の特別指導監査によりまして、北区立岩淵保育園において、平成30年から令和2年にかけて不適切な保育と疑われる事案があり、児童一人一人の人格を尊重した保育が行われていないとの指摘を受けました。

当該指摘を受け、同保育園を運営する指定管理者、また、再発防止策をまとめた改善状況の報告書を東京都へ提出するとともに、臨時の保育保護者説明会を事業者が実施いたしました。

区といたしましても、今回の結果を真摯に受け止めまして、不適切な保育の未然防止を保育園と一緒にしっかりと支援体制を構築していきたいと思っております。

改めまして、今回の事案につきまして、ご迷惑をおかけ致しました皆様におわびを申し上げたいと思います。

これから区といたしましても、しっかりと子供たちの健やかな育ちのために体制をつくっていききたいと思っております。

よろしくお願いいたします。

まず、この件について何かご質問があればお受けしたいと思っております。

#### 【司会】

ご質問がございましたら、挙手にてお知らせください。

よろしいでしょうか。

#### 【やまだ区長】

じゃちょっと対応だけ。

今回の指摘を受けまして、事業者である法人と区の対応について、詳細ちょっと御説明をさせていただいたと思いますが、まず法人に関しましては、法人内に設置をしております虐待防止委員会で内容を検証しまして、再発防止措置を講ずることとされています。

また、その内容について全職員に徹底をしていく、不適切保育発生防止と、また発生時の対応について区分した不適切保育ゼロに向けた具体的な計画を作成し、改善に向けた取り組みを行うということで報告を受けております。

あわせて、区の対応といたしましては、保育課のホームページにおいて虐待等と疑われる事案、

不適切な保育があった場合の相談窓口を開設いたしました、8月30日時点です。

あわせて10月に保育園等の職員を対象とした子供の人権に関する研修、これは公民合同の研修を実施する予定であります。

職員が子供一人一人の人格を尊重するための意識の向上と認識の共有を図りたいと思っております。

また、区に相談があった場合、相談のあった保育園等について外部の多様な視点を取り入れるために、区立保育園の園長経験者等による継続的な巡回支援を強化、実施していきたいと思っております。巡回支援の実施によりまして、子供の人権擁護の観点から、職員同士の振り返りや情報共有の仕組みづくりを支援するほか、他の施設の取り組みや具体的な対応などについて助言・指導を行い、虐待等の未然防止を徹底して図っていきたくと思っています、以上です。

**【司会】**

ご質問よろしいでしょうか。

それでは懇談の方に移らせていただきます。

まず議題をいただいております、駅周辺のまちづくりということで、本日机上にグランドデザインの冊子の方も置かせていただいております、こちらについて区長へご質問がありましたら、是非挙手にてお知らせください。

**【やまだ区長】**

事前のアンケートでは、駅周辺再開発に関することとお話し聞きたいよという項目が多くございましたので、今日は王子駅周辺まちづくりのガイドライン策定いたしました。この資料を配付させていただいております、あわせて日本製紙のサンスクエア売却の件と王子駅周辺に関しましていろいろとお声をいただいておりますので、王子駅に関して何かご質問等あればお話をさせていただきたいと思っております。

先にサンスクエア売却の報道については、区長コメントもホームページ上で出させていただきました。

このサンスクエア、日本製紙のこの場所は王子駅再開発のまさに中心として、その先の新庁舎建設と王子駅再開発、連動した形でしっかりと前に進めていく意味でも重要な場所となりますので、新たな権利者、所有者となる事業者としっかりと、トップレベルでの協議も含めて進めていく考えています。

**【やまだ区長】**

はいどうぞ。

**【質問者 東京新聞】**

東京新聞のサカキバラです。

新庁舎の建設は490億円がもともと見込まれていたかと思うんですけど圧縮のめどみたいなのは現時点でどの程度立ってるかお願いします。

**【やまだ区長】**

はい、私公約の中でも期間と費用に関することを掲げさせていただいてきました、これまでもご説明、

議会答弁でも出させてもらってるんですけども、490 億円のコストが、適正なものかどうかということの検証を常にしていくってということが主な考え方であります。

安かろう悪かろうになるってことは避けなければいけないっていう考え方を持っておりますので、令和 15 年に向けて、この 10 年間で例えば庁舎機能が今の想定から必要な機能が変わってくる可能性が、デジタル化を含めて大いに考えられます。

こういった機能の適正化も含めて考えていく中で、今考えている床面積がその通り必要なのかでこれを圧縮される場合にどのように活用していくことで収入として得ていくかっていうようなことを含めて、採算を 490 億からどれだけこう縮めていけるか、もしくは適正な建設コストとして捉えていくことができるかっていうことを、この 10 年でしっかりと常に意識をしながら捉えていくってことが考え方としてあります。

ですので、今の時点でこのぐらいという数字はまだ持ち合わせておりません。この考え方は、新庁舎建設に当たって全庁的な考え方として統一をしていきまして、その見直しを常に図れるような仕組みをつくっていくというのが今の段階です。

【司会】

他にはいかがでしょうか。

【質問者 建通新聞】

建通新聞のヤマシタです、よろしくお願いします。

先程の新庁舎の整備に関することなんですけれども、今、基本設計ってことですかね、その辺を進んでいってるところかなと思うんですけれども、整備手法としては公共事業といいますか、官の方で整備をしていくっていう形だと思うのですが、具体的なその整備手法といいますか、設計から施工まで一括でやっていただくとか、その辺のお考えとか、庁舎が移転するということにあたって、再開発事業っていうところも OJT 周辺進んでくるところかなと思うんですが、新たな庁舎への期待といいますか、その辺お聞きできればと思うのですかよろしくお願いします。

【やまだ区長】

そうですね、まず庁舎建設に関しては、本当に区民の方々の大きな期待とともに関心を寄せていただいておりますので、この手法については公開できるものはどんどんしていきたいというのが基本的な考え方であります。

今そういった意味では選定をプロポーザルで行っている、公開していくためのプロポーザルを掛けまして体制を整えてるっていう考え方です、民間との連携っていうところではいきますと庁舎そのものの機能が民間を入れていくってことがなかなか適切な有効な手段としてあるかということ、今の段階では難しいかなというふうに思っておりますので、建てた後の活用の方法として、民間との連携っていうのは考えていきたいなというふうに思ってるんですが、新庁舎の課題というのは、もう本当に前からありまして、まずこの課題が大きな課題として新庁舎を立て替えなきゃいけないってところから始まったんですが、新庁舎だけ王子にできればいいという考え方から、やはり駅周辺一体的な再開発を行っていくことで、王子駅の価値を高めていく、イコール北区の価値を高めていく手法にしていくという流れの中で駅周辺、まさにこのまちづくりガイドラインが今の段階でつくられました。

あわせてプラットフォームってということで多くの区民の方々のご意見や地権者にとどまらない周辺に住む方、活動されるの方々のご意見をもとにした王子駅周辺の再開発にしていけるためのプラットフォームを来年3月に立ち上げるための準備会を今、区としては行ってございまして、意見の集約のしかたっていうところで取り組みをしております。

そういった意味では北区の、王子は県庁所在地ですので、ここの駅周辺全体の再開発がいかにこう皆さんの思いを実現していくかによって、将来的な北区の価値が変わっていくと思っておりますので、エリアマネジメントの考え方を取り入れて、権利者の方にとどまらない、生活する人、活動するの方々、ご商売される方々の思いを込めた、それを実現する駅周辺の再開発に区がそのハブとなって実現していきたいなというふうに思っています。

**【司会】**

ありがとうございます。

それでは、最後にフリートークの時間も設けておりますので、一旦次の議題に移らせていただいてもよろしいでしょうか。

続いて、渋沢栄一翁と新札発行についてということでテーマに懇談させていただきます。

何かご質問などありましたら、挙手にてお知らせください。

**【やまだ区長】**

どうぞ

**【質問者 都政新報社】**

すいません都政新報社のドイと申します、よろしくお願ひします。

来年の新一万円札発行に向けて、新たに大きなプロジェクトを打ち出すと思うんですけど、今現段階で具体的に決まっているプログラムというか、何かあれば教えてください。

**【やまだ区長】**

はい。

まさにこの会の前の時間にですね。第1回目の新一万円発行カウントダウンプロジェクトの協議会っていうのを立ち上げさせていただきました、この間、北区渋沢栄一プロジェクトとして大河ドラマ館ですとか、そういったものを商工会議所、北区観光協会、渋沢財団、その他民間の方々との連携の中で進めてきた経緯もありますので、そういったこれまで御尽力をいただいてこられた関係者の方が中心となっていたら、プロジェクトの協議会を今日、第1回目を発足させていただきました。

会長には商工会議所北支部のコシノ会長にお務めをいただくことに決まりまして、コシノ会長を中心としたそれぞれの団体の方々が行われる事業をこの協議会の中で集約をさせていただいて一本化した形でこう発信をしていく、それぞれの団体が行う事業について連携・協力をしていくっていうような形でいます。

その一つとして、北区としても区独自で行っていく事業を提案、協議会の中ではご説明をさせていただきました。

例えば、SNSでの、もちろん発信をしていく、これ北区のホームページの中でカウントダウン特設コー

ナーを作りまして、この特設コーナーの中でそれぞれ協議会にお入りいただいている渋谷関連の事業ですとか、取り組みがここで一括して見ていただけるような仕組み。

また、フェイスブック・LINE・旧ツイッター X ですね、でも積極的に発信をしていくこと。

また、北区ニュースで情報発信を、特集を組んでやっていきたいと思いますし、あわせてこの協議会として共通のアイコンというんですかね、作りまして、それを常にいろいろなものに入れていく。

また、今日の協議会の最後には観光協会のキャラクターであるしぶさわくんが今回のカウントダウンプロジェクトの大使として任命を、協議会としてさせていただきまして、任命式をしました。

これも後ほど SNS で発信していきたいなと思っているんですが、大使としてしぶさわくんに出てもらって、こういったさまざまな取り組みを行って、タウン誌・雑誌・テレビ等への積極的な PR、私も営業マンとなって各広報を自ら営業、売り込みに行きたいなというふうに思っております。

タウン誌であるきたシティの掲載、雑誌東京人の特集号、それ以外にさまざま有料広告、そういったものも含めて、広報の検討をしています。

それと、しぶさわくんFMで、今年の 11 月 11 日に開設予定であります、城北信金メディアラボと観光協会による運営をされます、しぶさわくんFMの中で、この取り組みについても発信をしていきたいなと思っています。

しぶさわくんFMの中で主に防災ですとか、区政情報を発信していく考えであるんですが、その中の一つとして、エンタメコンテンツとして、しぶさわくん、このカウントダウンプロジェクトも合わせて発信をしていきたいと思っております。

また、区として行っていく一つには、青天を衝けの大河ドラマの時に幟ですとか、いろんなポスター、駅前の飾りもしましたが、これは改めて新一万円札発行カウントダウンプロジェクトとしての新たな横断幕ですとか、フラッグっていうものに変えて統一して区内を一色にしていきたいなというふうに思っています。

#### 【やまだ区長】

それと、これまだあれなんですけど、大きな想いなんですけど、ちょっと前にも話したしぶさわくんの歌を、北区のふるさとの歌として、今 NHK の紅白に出られている北区出身の水森かおりさんがこの歌を歌ってくださってるんですが、この歌を、しぶさわくんの歌を NHK の紅白歌合戦で歌ってほしいなって思っております、しぶさわくんの歌を歌ってもらうだけではなくて、やっぱり紅白歌合戦の中で新紙幣に向けた新一万円札、五千円札、千円札それぞれの新たな顔の紹介であったり、そういったコーナーをやっぱり NHK に作ってもらって、その中でしぶさわくんが壇上に登壇する、そしてあのゆかりの地である北区をはじめ、深谷ですとか、さまざまな関連したゆかりの地域をつないでいただいて発信していきたいなというふうに思って、これから企画を持っていきたいと思っています。

あわせて東京証券取引所の大納会でしぶさわくんが鐘をつく、これはぜひ提案をして実現したいなというふうに思っています。

あと、しぶさわくんの歌を JR 王子駅の発車音、また、あの区内の夕やけチャイムの曲をしぶさわくんの歌にしたいとか、しぶさわくん、渋谷栄一翁で一色にしていく企画をいろいろ考えています。

あわせて今、区としてのこれはアイデアなんですけれども、これ以外に、やっぱり北区だけが盛り上がるのではなくて、区民の方々にも一緒に盛り上がっていくためのアイデアを今考えています。

区民、区内団体の方々からアイデアを募集いたしまして、いただいた募集で検証して選ばれたものは、来年度の当初予算にしっかりと中に入れて事業化をしていく、自由提案と渋沢新一万札をテーマにした2つのテーマを作りまして、自由提案、2つ目が渋沢一万札をテーマにしたギネスに挑戦、みんなで区民みんなでギネスに挑戦していく、こんなことで挑戦するって案をこれから募集していきたいというふうに思っております。

あわせて区の職員も一部の広報だとか、シティプロモーションってやってることではなくて、全庁的にやっぱり渋沢翁の精神を北区が受け継いで、それを元にした事業を発信していくことで、渋沢のまち北区を、区内外・全国・世界に発信していく、全職員でアイデアを考えたいと思っております、職員アイデア募集も現在9月の下旬、これからですが、募集を開始します。

同じように自由提案とギネスに挑戦、あわせて各部ごとに行っている事業、これに関連する事業としての提案、個人、グループ、部ごと、こういったテーマで、それぞれ提案を受け付けていきたいというふうに思っております。

もう一つは、東京商工会議所の方で毎年行われております、11月11日、渋沢翁の命日に藍色、青い色でライトアップをしていくという取り組みをされています。

この取り組みに北区も賛同しまして、区内の各ライトアップできる場所をこの藍色、青で挑戦をしていきたい、ライトアップをしていきたいなという風に思っています、区内企業、事業者にもそれはもう賛同、お願いをして11月11日は藍色で区内を染めていきたいという風に思っています。

合わせてですね、これ全部話してしまいいいのですかね。はい。

今考えている企画全部話すそうですね、新一万円札発行の記念イベントも考えています。

人気ユーチューブチャンネルの ReHacQ(リハック)とコラボイベントを考えておまして、これも今、交渉中ではありますが、ユーチューブでの配信をしていきたいなと思っております。

あわせて発行直前のイベントもやっていきたいと思っております、子供たちにもこういった渋沢翁の精神をやっぱり伝えていくということもとても重要だと思っております、国連を支える、世界子ども未来会議に区としても参加をしていきたいというふうに考えております。

未来を担う北区の子供たちが、渋沢翁の理念に通ずるSDGsを考えて、そのワークショップ等を開催しまして、世界の子供たちと北区の子供たちがSDGsを通じてつながっていく、そんな取り組みに参加をしたいと思っております。

あわせて、今回協議会の中にも入っていただいております、国立印刷局にもご協力をいただいて、先程申し上げた10月7日、8日の区民まつりの中で、新紙幣発行の記念としてお札体験イベントを、これはあの、会場は印刷局の中でのイベントになりますが、渋沢カウントダウンプロジェクトの一環として取り組んでいただくような形で連携を図っていきます。

また、あの平成30年に北とぴあで上映をいたしました、渋沢翁を題材にした演劇「見晴らす丘の紳士」これをプロジェクトの一つとして改めて復活上映を考えています。

また、文化ロードマップとして毎年発行している、文化ロードマップの中に新一万円札の渋沢と、もう一つは芥川も入れて、この結ぶ散策ルートを紹介したリーフレットを作りたいなというふうに思っています。

最後に、これももう記者会見等でお話しておりますが、北区SDGs推進企業の認証制度、これはま

さに渋沢の精神、持続可能な経済の発展は、道理と道徳を伴うべきという、この渋沢の精神を受け継いで新しい時代に必要とされる事業者の取り組みを支援していく取り組みでありますので、この認証制度もカウントダウンプロジェクトのひとつとして位置づけてどんどん発信をしていきたいなというふうに思っています。

これ最後にいつも申し上げているんですけども、新一万円札発行カウントダウンプロジェクトの目的は二つありまして、一つはやはり近代日本をつくってきた渋沢翁の精神をこの北区から全世界に発信していくということとともに、その精神をもとにして北区が、北区自身を区内外、世界に発信していくことで、区民の方々に豊かな暮らしにつなげていきたい、観光資源をしっかりと確立して観光産業を活性化していくとか、そういったものにつなげていきたいなという大きな二つの目的で、このカウントダウンプロジェクトを進めていきたいというふうに考えています。

はい、こういったところでご質問あれば。

**【質問者 毎日新聞】**

毎日新聞のナンモです、よろしくお願いします。

飛鳥山公園で 150 の夢をかなえようってやっていらっしゃると思うんですけど、そこに渋沢栄一に関しての何かアイデアとかって寄せられていたりしますか。

**【やまだ区長】**

そうですね、150 周年の取り組みと、やっぱり渋沢翁の取り組みとは連携していく形でやっています。

先日、利活用に関する意見交換のような形で、民間の方とのプロジェクトを 유튜브 配信したりとか、ここもやはり渋沢の考え方をもとにしたお話をさせていただいたりとか、飛鳥山公園の大きな売りは、やっぱり渋沢翁がここで暮らしていたというその拠点となりますので、ここはつなげた形での取り組みを発信していきたいなと思っております。

**【質問者 毎日新聞】**

こういうことをやりたいという区民からの何か具体的なアイデアとかってもう寄せられているんですか。

**【やまだ区長】**

これから、今も順次 150 の思いについては取りまとめをしているところですので、その中で出てきたものは、しっかりと今回のプロジェクトとつなげて取り組みをしていきたいというふうに思っています。

**【司会】**

よろしいでしょうか、後ほどフリートークの時間もありますので、次の項目に移らせていただければと思います。

続いて事前にご質問をいただいております、田端文士村と(仮称)芥川龍之介記念館についてということで項目を挙げさせていただきました。

こちらにつきまして、何かを聞いてみたいことなどありましたらお知らせください。



【質問者 建通新聞】

すいません、芥川龍之介記念館の整備に関することなんですけど、もともとはちょっと新型コロナの関係とかで若干そのスケジュール的に遅れているということで認識しているんですけども、整備のスケジュールであったりあと、施設内容なんかについてお聞きできればと思います。

よろしく願います。

【やまだ区長】

もう一回いいですか。

【質問者 建通新聞】

整備のスケジュールとあと、施設の今のお考えの内容というか、どういった施設になるかっていう辺りのところを分かれば。

【やまだ区長】

詳細の内容についてご遺族との話の中で、また全面的に出せる部分がちょっとあれですので、申し訳ありません。

時期に関しましてはコロナがありまして遅れております、今建設最終の年度が令和8年に完成予定を目指して取り組みを再開しております。

芥川龍之介に関しましてやっぱり日本を代表する作家でありながら、あんまり単独で記念館とか文化館をつくられるっていうことが、設置されてきてなかったってということにやっぱり着目をしまして、しっかりと整備をしていくことで、芥川ファンの皆さんにも長く愛していただけるような施設にしたいなという思いはあります。

そういったことで居を構えていた、その中をどういう風に出していけるかっていうことは、ご遺族の方々としっかりと協議をして最大限可能なものを、ファンが望むようなものをつくっていけたらなというふうに思ってます。

【司会】

ありがとうございます。それでは、次の項目に移らせていただきます。

続いて、先ほども少しお話の出ておりましたが、飛鳥山公園についてということで何かご質問などありましたらお知らせください。

区長せっかくなので、今週末に行われるイベントのことをご紹介いただければと思います。

【やまだ区長】

はい。

9月23日の土曜日ですが、防災イベントを開催予定しております。

飛鳥山公園150周年イベント第5弾といたしまして、災害と公園について、飛鳥山防災サバイバルというものを企画しております。

公園内での防災アドベンチャーですとか、そのいろいろなアイテムをコンパス片手に探していくというような企画とか、あと、その場での災害を乗り越えるためのクッキング、災害時に作れるよう調理をみんな

なで体験してもらおうとか、そういったことを企画しております。

後、災害時に一番、ご家族とか親戚とかとご連絡を取る災害時の災害用伝言ダイヤル、これ実際に体験されたことのある人ってわりと少ないと思うので、これを体験してもらおうコーナーをつくったりですとか、あとこれまでもあった起震車とかそういったものの体験、あとマンホールトイレの組み立て、実際に組み立てて中に入ってもらうとか、そういった飛鳥山公園内での体験をしていただくイベントを予定しております。

【司会】

ありがとうございます。

それではこの後のフリートークに移らせていただきます。

その他何か区政全般等につきまして、皆様からやまだ区長に聞いてみたいことなどございましたらお知らせください。

【質問者 東京新聞】

すいません、先程庁舎の話で建てた後の活用法として民間の連携を考えていくっていう話あったんですけど、具体的なイメージっていうのは、ちょっと一存では決められないかもしれないですけど、具体的なそのイメージっていうのは何かありますか。

【やまだ区長】

庁舎機能がどのように10年後に求められてくるかっていうことが大きなポイントになるかなと思っておりまして、その機能をデジタル化も含めて、その時の最先端の技術を活用して、どのぐらい機能として持たせていくか、機能が変わっていくことも想定、いわゆる窓口での手続きっていう庁舎の機能から、もしくはその人が集まるような機能になっていくのか、そういったことが民間との連携の中で、より時代に合ったものにしていくっていうようなイメージを私の中では持っています。

まずなので、今ある建物の床面積を含めてそこと機能をどのように組み合わせていくかっていうところでしっかりと見極めを常にしていく必要があるかなっていうふうに思っています。

【質問者 東京新聞】

そうするとその来年3月に立ち上げるというその区民の意見を取り入れるためのプラットフォームの中で、そういうアイデアとかも募るっていう感じなんですか。

【やまだ区長】

プラットフォームの立ち上げは、王子駅周辺全体のまちづくりに関するプラットフォームでありますので、新庁舎に限定したっていうことではなくて、駅前、王子駅全体の再開発へ向けた皆さんのご意見をいただく場として考えています。

【質問者 東京新聞】

はい、ありがとうございます。

【司会】

ありがとうございます。  
お願いいたします。

【質問者 都政新報社】

もう出ていたら大変恐縮なんですけど、あの日本製紙の件でサンスクエアが売却されて、日本製紙ありきでの王子駅と一体とした新庁舎の建設っていうことだったと思うんですけど、新たな土地所有者になると結構その協議はされていくと思うんですけど、正直新たな所有者がどうか分からない中で結構難しいのかなって個人的に思うんですけど、その受けとめというかを伺えればなと思います。

【やまだ区長】

はい、先ほども申し上げたとおり、王子駅周辺まちづくりの中におけるサンスクエア、日本製紙のあそここの場所は非常に重要な場所であります。

ガイドラインの中においても優先的に事業を図っていく先行実施地区にも位置づけておりますので、こうガイドラインで示しているウォークブルガーデンのご実現ということに向けて、やっぱり新たな事業者との協議をしっかりとしていきたいなというふうに思っています。

駅前の活力、にぎわいの創出や歩行者ネットワーク、本当に歩行者道路をきちっと作っていくことっていう意味では非常に大きな存在でありますので、今の段階でやはり区民の方々にも説明がつくような交渉、それから連携を強化していく決意であります。

そこはもう積極的に私自身もそうですし、関係、庁内の関係者みんなで連携を図りながら譲渡先との協議を進めていきたいなというふうに思っています。

【司会】

ありがとうございます。

【司会】

はい、すみませんではお願いいたします。

【質問者 毎日新聞】

全然別の話題なんですけど、去年の9月に赤羽駅で朝鮮人コロス会っていう落書き、差別落書きがされた件を当時取材していたんですけども、あの後もやっぱり朝鮮学校の子供たち、十条の近くに中高級学校ありますよね、その子供達はすごく怖い思いをして通学していると聞いていまして、ちょっと当時、私の記憶では北区長から何かメッセージがあったことはなかったと思うんですけども、何かそういうことがまたもしあった際に、区長として何かそういうことは人権侵害でありというようなこうメッセージを出されることだったり、日頃から何かこう御意見を発するってことは、何かお考えがあったらお聞かせいただきたいです。

【やまだ区長】

人権に関してってということでもいいかな。まず基本的な考え方として、冒頭の保育園の件もそうですが、区で起きていること、北区役所で起きていること、そういったものをどんどんこう発信をして必要なものについては、情報公開をしてしっかりとした対応、再発防止も含めてこう皆さんにお知らせしていくって

いう考え方を持っていますので、区内でそういった区直接という形じゃなくても求められるものについては、個人的に発信していくことは、区長の立場として発信できるものについては考え方出していきたいというふうには思っています。

ただ、一概にケースによって変わってくると思うので、なかなか難しいんですけども、自分の考え方を発信していくことはコメントとして考えていますので、それは取材を含めて記者会見等で必要なものについてはどんどん出していきたいというふうには思っています。

はい、適宜コメントは出します。

【質問者 毎日新聞】

自治体の長がそのメッセージを出すか否かっていうのは、すごく大きな意味があると識者からもよく指摘されますので、またそういうことがもしあれば伺えたらな。

【やまだ区長】

ないといいですね。はい。

【司会】

他にいかがでしょうか。

【やまだ区長】

はいどうぞ。

【質問者 東京新聞】

北区と関係なくてもいいですか、別に、ちょっと突拍子もないかもしれないんですけど、あの岸田政権の改造内閣の副大臣・政務官、女性は0ということになっているんですけど、それについてちょっとお考えあれば伺いたいです。

【やまだ区長】

そうですね。女性が大臣の方で結構人数出ていたので、そういう意味では残念だなんていう思いはありません。

合わせて私もずっと区議会、都議会、今の立場と担わせていただく中で、女性だから選ばれるとかっていうことに繋がるのは逆に切ないとか、残念だなんて思いをずっと持ってきた立場なので、思っていたので、その女性の能力を適切に、適正に評価されて、適切な役職を得ていくという、その女性だから受けづらい、任命されづらいということはあってはならないと思っているんですが、その逆も適切に行われるべきだという思いもあります。

能力によってしっかりと選ばれていくということは、男性も女性も変わらずされるべきという考え方でいけば、今回の任命があえてなかったのかっていう、そこはちょっと意図わからないんですけども、能力として高い方が選ばれなかったとすれば、やっぱり残念だなんていう思いはあります。

逆に女性枠っていう形で作っていくことも、あんまり大きくっていうことはどうかと思うのですが、やはり一定程度女性っていうの起用していくことは、これから変えていく中では必要だと思うんで、そのバランスは非常に難しいなと思うんですが、社会の皆さんの受け止めが女性だから選ばれたって

ということが先行しないような選ばれ方がなっていくといいなというに思っています。

【質問者 東京新聞】

ありがとうございます、それで北区政の話になるんですけど、区としてその区役所の男女の話、その幹部の割合をいつまでにどうしていきたいという今のお考えはありますか。

【やまだ区長】

今、やっぱり管理職が20%ちょっと超えるぐらいだと思います、管理職に女性が今20%程度だということに留まる、そこが何が理由かっていうところをまずきちっと把握をして、その数値を上げていくことが目的にならないようにしたいというのが一番思いとしてあります。

女性でも、男性でも、例えば子育てをしても管理職になれる、そして活躍できるっていう環境をどう区役所内で作っていくかってことにまずエネルギーを注いだ上で、あともう一つは女性の職員の方々にも、そのやっぱりどこかで管理職なんてとか、課長なんてっていうこうちょっと引目を感じているバイアスがかかっている、その部分があるとしたら、それはもうなぜ20%ぐらいなのかっていう、把握していくことがまず第一で、その理由の中にそういう意識がもし女性職員の中に多くあるとしたら、そこを変えていくための取り組み、研修だとかそういったものをしていきたい。

まずは区の職員の方々に向けてのそういう意識調査だとか、そういったことを把握した上で、働きやすい女性でも管理職として働きやすい環境整備を積極的にやっていく、そして意識改革をしていく。

そういう考え方で目指す数値になっていけばいいなというふうに思っています。

【質問者 東京新聞】

目指す数値っていうのは。

【やまだ区長】

やっぱり3割は。

【質問者 東京新聞】

それは何年までにというあれではない。

【やまだ区長】

先ほども申し上げたとおり、それが目的化してしまわないように、本当の、本来の目指すところはやっぱり女性でも、男性でも、どういう家庭環境だとか、その介護をしているとか、子育てをしているとか、そういうの関係なく活躍できる環境をつくっていくことが能力を発揮してもらえる環境をつくっていくことが本来の目的になるべきだと思うので、それをもう早くにつくりたいって意味ではこの任期中に一定の目途を立てていくことは私の責任だと思っています。

【質問者 東京新聞】

ありがとうございます。

【司会】

はい、いかがでしょうか。

せっかくの機会ですので、区長から皆様に聞きたいこともありますので、ぜひ。

**【やまだ区長】**

あのですね、今日本当にお越しいただいてうれしいなと思いました。

やっぱり区役所として各所管の職員の皆さんは区民がこういうことしたら便利なるなとか、そういう思いで一生懸命仕事をしているんですけども、なかなかそれが外にこう伝わっていくのが難しいなって、私は中に入れてみて思っています。

なので、区が頑張っているとか、こういった取り組みで、区民の方々からすごく喜ばれたとか、こんなことやって、もっともっと便利にしていきたいんだっていうことをやっていることや、やっていこうとすることを発信することで、区民にも伝えていきたいというふうに思っているんですが、なかなかやっぱり私の広報としての役割がまだまだ十分じゃなくて発信力を強化していくためには、どんな発信の仕方をすれば、マスコミの皆さんの取り上げ方が変わるかなとか、そういったこともぜひ今日伺いたいなと思っていた一つでした。

今、定期的な記者会見でやっていることをお伝えしつつ、今回、新たに皆さんからのこうざっくばらんな意見交換もさせていただいて、実際にマスコミの皆さんとして、こういうものは取り上げやすいとか、こういうものが取り上げていく基準になっているよ、社内的に、みたいのがあれば、ぜひご教示いただきたいなと思っていますが、いかがでしょうか。

多分ですね、待っているとなかなか難しいと思って順番にお願いしていいですか。

よろしく申し上げます。

**【発言者 都政新報社】**

私は都政新報という都政を扱う専門紙なんですけども、やっぱり扱いやすいのは 23 区初でしたりとか、都内初の事例っていうのがプレスリリースに書いてあるとすごく取り上げやすいなと思います、で各区広報に力を入れている区もあると思うんですけど、そこで聞いたのは数打ちや当たる精神でやっているって言う区がありまして、本当に区としては小さいと思っても、それがどこの新聞社とかに当たるか刺さるか分からないから、例えばなんでしょうね、本当に小さいネタというか、区として、そんなの全然だよと思っても、とりあえずプレスリリースを送りまくるみたいなのを聞いたことがあるので、何か参考になればと思います、以上です。

**【やまだ区長】**

ありがとうございます、はい、あの、記者会見で出していく項目を各部署でこの取り組みを上げたいですってのは一応確認をする、もちろん、私もこの事業をこの記者会見で出したっていう自分の思いも入れてもらうんですけど、それ以外に各部署で、これはもうこのタイミングで出してほしいっていうのを受け付けてるんですけど、わりと奥ゆかしくて、これ、こういうふうに行っているのは当たり前のことだから今更何か、っていうようなことも結構あって、やっぱりその小さなことでもやっぱりこう伝えていくっていう数を発信していくっていうのは大変勉強になりました、ありがとうございます。

では順番にすみません。

**【発言者 毎日新聞】**

ドイツさんがおっしゃることはホントそのとおりだと私も思います。

区によっていただくリリースの数が全然違うんです日々、北区さんはあまり正直来ない方です、でそれは別にももちろん質が大事だと思いますけれども、その中でどこの興味にも引っかかるかっていうのは、記者によって全然違うと思います、で例えば私、前の、そのドイツさんがおっしゃったのは、NEW の、新しい方の情報だと思うんですけど、私、戦争関連の取材とか結構することが多くて、前、区内で防空壕がまだ残っているのを、もうついに取り壊しますっていうリリースが足立区から来て、でこの壊す前に最後に公開するというか、取材の機会を作りますっていうのがあって、私は見たかったので取材に伺って、でそういう話もすごくありがたかったです。

なので初ばかりでなくとも本当にこれ要るのって、さっきおっしゃったようなそういうことでも誰かはいると思う可能性は十分にあると思っているので、是非色々教えていただけたらなと思ってます。

【やまだ区長】

ありがとうございます。

よかったです。

【発言者 東京新聞】

全く同じような意見で、そうですねやっぱその都内で初とか全国初っていうのはすごいインパクトとしてはあると思うんで、それぐらい。

あと、そのナラティブというか、その物語性が作れるかどうかっていうのは結構大きいと思うんですけど、何か全体の流れがあって、その上でこれをやるっていうものが一つあると北区ってこういう街なんだなっていうのにも多分繋がってくると思うので、それはあるのかなという気はしています。

【やまだ区長】

物語性っていうのは本当に新たな感覚でした。

ありがとうございます。

お願いします。

【発言者 建通新聞】

そうですね、ちょっと我々は建設関係の新聞なので、少し違うのかなという部分もあるんですけど、やはり事業が公共事業を多いところを取り上げやすいという部分があるのかなというところはあるんですが、あとはやっぱり区によってその情報の発信の仕方みたいなのが随分、公開してる部分っていうのがやっぱり違う部分もありまして、例えばある区でいくと、まあその議会資料なんかも全然公表してないような区なんかもあったりするので、取っかかり事業を追う上で情報公開という面というか、いろんな計画の情報について発信をしていただければ、非常にやりやすい部分もあるので、そういった公開を積極的にしていただければありがたいなという部分はあります。

【やまだ区長】

ありがとうございます。

はいすいません意見交換ということで、皆様からのご意見もいただいて、やっぱりいかに区役所が取り組みをどんな風に行っているかってことを、やっぱりどんなちっちゃなことでも区民の方々に伝えていくこ

とが行政としての役割なんだなというのは、改めて実感させていただきました。

これは職員のみならず共有しながら、頑張ったこととかそういったものをどんどん皆さんに伝えていこうという機運をですね、声を上げていきたいなと思ってしますので、これからの記者会見ももう少しまた新たなもので変わってくるかもしれないので、是非その都度ご意見をいただきながら、私たちも努力していきたいなと思ってしますので、よろしくお願いいたします。

**【司会】**

ありがとうございました。

それでは時間となりましたので、記者懇談会はこれにて終了とさせていただきます。

本日はご参加いただきまして、まことにありがとうございました。

**【やまだ区長】**

ありがとうございました。